

松尾樹 | まつお・たつる | 味の素AGF株式会社 (AGF関東株式会社出向) 管理部 品質管理グループ 第2係 係長



松尾樹

—
2014年度
大学院工学科学研究科
博士前期課程
応用生物学専攻 修了

Fig.1——大学院修了式での様子



Fig.2——コーヒーの官能検査

設備だけでなく人間関係にも

生まれた研究室生活

京都工芸繊維大学を受験した際は小さな大学だと思いましたが、入学後はその小ささが良いところだと思ようになりました。初めての1人暮らしで不安もありましたが、応用生物学課程の同回生は40名程だったこともあり、農場実習やテスト後にはみんなで打ち上げや旅行をして楽しく学生生活を送ることができました。

勉学での一番の思い出は、昆虫バイオメディカル教育研究センターでの3年間の研究室生活です。設備、備品なども十分にあり環境には非常に恵まれており、風通しがよくドクターの方や先生への相談もしやすく、研究の進め方、実験手法、知識、文章の書き方や資料の作り方など多岐にわたりご指導いただきました。研究内容自体は、4回生の時はなかなかいい結果が得られませんが、その分いろんな論文を読み、小さな結果でも次に活かすにはどうすれば良いのか自分なりに考察し、先輩、先生に相談していました。相談した際には、適切なアドバイスをいただいたり、「それおもしろいね」と言っていたりして下級生の意見にもちゃんと耳を傾けてくださる研究室だったので、研究を進めるために何をしたらいいのか、まず自分自身で考えるようになりました。大学院からは、「おもしろいね」と言っていただけテーマを研究し何度か学会発表もしました。実験結果から研究の進め方を考えることが楽しく、周囲のサポートもあり非常にいい経験ができた研究室生活だったと思っています。研究室生活を通じて得られた基礎的な研究手法や、現状から問題を解決するための考え方は今でも役に立っていると思います。

品質管理を通じて

よりよい製品をお客様に

就職先である味の素AGFは、コーヒーを中心に嗜好飲料を提供することで社会にやすらぎと健康を提供して

います。現在は味の素AGFの生産会社であるAGF関東の品質管理グループ第2係で勤務し、①製品検査、②食品安全マネジメントシステムであるFSSC22000の運営、③クレーム対応を中心に業務を行っています。①では、微生物検査、風味の官能検査、外観検査を行い製品が問題ないか最終確認をし、出荷の判断をしています。②では、原料受け入れから製造プロセス、出荷までの全体の中における品質面の課題、トラブルを解決できるように定期的に製造部と会議を行い改善や予防処置を行っています。③では、一つ一つのクレームに対してその製品が生産されたときの状態を確認し真摯に回答を行っています。

関わっているプロジェクトが無事に進みだした時はもちろんやりがいを感じますが、一番はお客様からのお褒めの声です。味の素AGFでは、お客様相談センターで受け付けたクレーム、お褒めの声を毎日配信していますが、自分が関わった商品についてお褒めの声をいただいた際にはとてもやりがいを感じます。

大学では時間の使い方を

意識することが大切

大学時代は時間があるので、いろんなことをやって仲のいい友人を多く作ったほうが良いと思います。最近は新型コロナウイルスの影響で会えていませんが、大学時代の友人とは定期的に集まっており良い息抜きになっています。京都工芸繊維大学は理系単科大学ですが、多様な学科があるので大学内でも十分面白い友人を作ることができると思います。

社会人になった後だからこそ思うのですが、勉学については、スケジュールを意識してPDCAを回せるように研究に取り組んだ方が良いと思いました。大学だと夜更かししながら実験、資料作りができますが社会人だとそうはいかないので、1日、1週間、1ヶ月、4半期で何をするのか、どこまで結果を出すのか計画を立てて仕事をしています。大学の研究室でこれが出来ていたら、もっと実験が進んだのだらうなと思います。

研究室生活で学んだ問題解決のための考え方は
社会人になった今でも役立っている。